

「気持ち」の意味について

加藤恵梨（名古屋大学留学生センター）

A Semantic Analysis of *kimochi*

Eri Kato (Education Center for International Students, Nagoya University)

1. はじめに

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をもとに¹、「気持ち」という語の意味を分析し、語の本質的な意味である意義素を記述することを目指す²。また、「気持ち」が複数の意味を有する場合、別義間の関連性について比喻を用いて説明する。さらに、「気持ち」の類義語である「気分」との意味の違いについても考察する。

2. 先行研究の記述とその検討

2.1 先行研究の記述

先行研究において、「気持ち」の意味がどのように記述されているのかを概観し、それらの記述を検討する。

森田（1989: 429）は、「気持ち」は「特に物事に接して感ずる心の状態である。したがって、心にある状態を与える対象か場面が条件として存在する」と述べ、「一汗流している気持ちだ」「気持ちのいい朝」「私に対する気持ちを聞かせてください」「面接試験の前は気持ちが落ち着かない」といった例を挙げている。また、「こちらにそのような気分を催させる対象にも用いる」と述べ、その例として「とても気持ちのいい方ね」「気持ち悪い格好の虫」などを挙げている。さらに、「ある環境や状況・立場に置かれた者としての心の様子にも用いる」と述べ、「患者の気持ちになって介抱しよう」「気持ちを引き締めてかかる」「これからは気持ちを入れ替えて勉強しろ」といった例を挙げている。加えて、「肉体条件に起因する快・不快の感覚も気持ちの問題と考える」と述べ、「船に揺られて気持ちが悪い」「凝っている肩を揉んでもらって、とても気持ちがいい」といった例を挙げている。

次に『講談社類語辞典』は、次の四つの意味を記述している。

- ・いろいろなことを知覚することによってその人が感じる心の状態。
「～のよい音楽が流れている」「彼の言動は人をいやな～にさせる」 (p.130)
- ・ある物事に対して生じる、心の状態や思い。
「もう少し彼女の～を思いやるべきだ」 (p.214)
- ・ある物事に対する考えや思い。
「あんなことを言う彼の～が理解できない」 (p.226)

¹ 例文の後に、作者と出典のみが記されている引用例は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から引用したものである。

² 意義素とは、「ある語がいろいろの具体的な場面・文脈で示す細かな意味のゆれを取り除いたあとに残る核的な意味のこと」（国広 1997: 12）である。具体的な文脈で用いられた語が、文脈ごとに微妙に意味が異なることは事実である。しかし、国広（1997: 174）が述べているように、「文脈の影響を受けて違って見える語義を細かく追求して行けば、多義はいくらでも数を増す」ことになり、文脈の影響によって違って見える語義を細かく記述するのではなく、語の本質的な意味、すなわち意義素を記述する必要がある。

・心持ち³。

「～右に寄ってください」「ねじを～緩める」 (p.1450)

2.2 先行研究の記述の検討

森田と『講談社類語辞典』の記述には大きな違いはないと言える。

森田の記述に「こちらにそのような気分を催させる対象にも用いる」とあることから、「気持ち」は「気分」と意味が類似しているということが確認できる。しかし、「気持ち」の意味を「気分」を介して説明したのでは、「気持ち」の意味、あるいは両語の意味の違いが明らかにされているとは言いがたいため、より明確な記述をする必要があると考えられる。

次に『講談社類語辞典』では、「気持ち」の一つ目の意味(=「いろいろなことを知覚することによってその人が感じる心の状態」)の例として「彼の言動は人をいやな気持ちにさせる」が挙げられている。しかし、この例は二つ目の意味(=「ある物事に対して生じる、心の状態や思い」)でも説明できそうであり、一つ目の意味と二つ目の意味記述にどのような違いがあるのかが明確に示されているとは言いがたい。よって、一つ目の意味と二つ目の意味の違いをより明確に記述する必要があると考えられる。

以下では、先行研究の記述とその検討をふまえ、「気持ち」の意味を分析する。

3. 比喩について

ある語が多義語⁴である場合、複数の意味の関連性について考察する必要がある。その関連づけを考える際に重要な役割を果たすと考えられるのが、「メタファー」「メトニミー」「シネクドキー」という比喩である。

靱山(2009, 2010)は「メタファー」「メトニミー」「シネクドキー」を次のように定義している。

メタファー

2つの事物・概念の何らかの「類似性(similarity)」に基づいて、本来は一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩 (靱山 2010: 35)

メトニミー

2つの事物の外界における「隣接性(contiguity)」、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の「関連性」に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩 (靱山 2010: 44)

シネクドキー

本来はより一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆に、本来はより特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩 (靱山 2009: 28)

本稿では靱山の「メタファー」「メトニミー」「シネクドキー」の定義に従い、これらの比喩を用いて「気持ち」が有する複数の意味の関連性について考察する。

³ 俗語(日常卑近な話し言葉として用いられ、あらたまつた場では用いにくいと感じられる語)であると記されている。

⁴ 國廣(1982: 97)は「多義語」について、『多義語』(polysemic word)とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と記述している。

4. 意味分析

本稿では、「気持ち」に4つの多義的別義を認め、それぞれの意味を記述する⁵。また、分析の最後に別義間の関連性について述べる。

4.1 別義1：〈身体に受けた刺激によって生じる〉〈心の状態〉

- (1) 内視鏡室に入る。まず肩に注射をうたれる。つぎにのどを麻痺させる麻酔薬を口に含むのだが、この麻酔薬がなんともまずくて気持ちが悪い。閉口した。おそらくまちがって飲みこんだりしないようにという配慮なのだろう。
(佐藤宏明『精神病棟の中で』)
- (2) ほどよくかゆいところをかく刺激は、だれにとってもとても気持ちのよいものです。そのため、かくという行為について浸ってしまいたくなります。
(福富雅康『アトピーはかいて治そう :: 薬もお金も時間もかけない』)
- (3) タオルを水で絞って、首と胸を拭う。幸いここでは井戸水を使っているので、水は冷たくて気持ちがいい。(柴田よしき、宮本陽吉『R-0 amour :: 長編ホラー小説』)

例(1)の文中にある「麻酔薬がなんともまずくて気持ちが悪い」という表現は、まずいと感じるような刺激を舌に受け、そのことによって好ましくない心の状態にあるということを表していると考えられる。よって、例(1)の「気持ち」は、舌に受けた刺激によって生じる心の状態であると言える。次に例(2)では、「かゆいところをかく刺激」は「気持ちのよいもの」とあることから、ここでの「気持ち」は、皮膚をかくという刺激によって生じた、好ましい心の状態を表していると考えられる。さらに例(3)は、水で首と胸を拭うことで「冷たくて気持ちがいい」と述べている。ここでの「気持ち」は、首や胸に受けた水の冷たさによって生じた、好ましい心の状態を表していると考えられる。よって、例(1)から(3)の「気持ち」は、身体に受けた刺激によって生じる心の状態を表していると考えられる。

以上から、「気持ち」の別義1は〈身体に受けた刺激によって生じる〉〈心の状態〉と記述することができる⁶。

4.2 別義2：〈ある物事によって引き起こされる〉〈心の状態〉

- (4) (前略) 上部には幅広のゴムを画びょうで留めて、スリッパ差しに。まだスペースがあれば、収納ポケットをつけて靴ベラや印鑑セットを収納する。このようにすると、狭い玄関でも、いつもスッキリ片づいて気持ちがいい。
(平成暮らしの研究会『家事そんなやり方じゃダメダメ! :: もっと手ぎわよく済ませるために』)
- (5) 『鬼平犯科帳』で有名な鬼平こと長谷川平蔵宣以は、天明七年(一七八七)より火付盗賊改めを拝命した実在の人物である。中村吉右衛門扮する平蔵が、自ら江戸市中を探索し、盗賊を捕らえ判決を申し渡す姿は、テレビで見ても気持ちがいい。
(山本博文『サムライの掟』)
- (6) 若い頃というのは、きまりきった毎日が蜿々と続くことに耐えられない気持ちになるものだ。荒業よりも日常のささいな仕事の繰り返しに耐える方が悟りに通じる、と言った僧侶もいる。(原京加『霧の記憶』)

⁵ 例文中、直接の分析対象となっている箇所は二重下線__で示し、それ以外の問題となる箇所は下線_で示す。ただし、例文が短く、該当箇所が明白である場合は、下線の処理を施さない。また、例文の文頭に付された「??」は、その表現が非文ではないが、容認度が低いことを示す。

⁶ 各語の意味あるいは意味特徴は、〈 〉で括って示す。

まず例(4)を見ると、文中に「狭い玄関でも、いつもスッキリ片づいて気持ちがいい」とあることから、ここでの「気持ち」は、玄関がスッキリと片づいていることによって引き起こされる、好ましい心の状態を表していると考えられる。続いて例(5)は、平蔵が「自ら江戸市中を探索し、盗賊を捕らえ判決を申し渡す姿」をテレビで見て、「気持ちがいい」と感じている。ここでの「気持ち」は、ある人の好ましい行動や姿を見ることによって引き起こされる心の状態を表していると考えられる。さらに例(6)では、「きまりきった毎日が蜿々と続くことに耐えられない気持ちになる」とあることから、ここでの「気持ち」は、きまりきった毎日が蜿々と続くということによって引き起こされる、耐えられないという心の状態を表していると考えられる。よって、例(4)から(6)の「気持ち」は、ある物事によって引き起こされる心の状態を表していると言うことができる。

以上から、「気持ち」の別義2は〈ある物事によって引き起こされる〉〈心の状態〉と記述することができる。

4.3 別義3：〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉

- (7) (前略) 自分の体が、どういう状況かわからず、ただ不安を募らせていた私の気持ちをくんで、能動的な聞き方をしてくれた看護婦さんに涙が出るほどのうれしさを感じました。(中井喜美子、親業訓練協会、近藤千恵『看護ふれあい学講座 :: 具体例で学ぶコミュニケーション訓練』)
- (8) 「ありがとう、おふみさん」
肝煎連中が気持ちのこもったねぎらいをくれた。(山本一力『あかね空』)
- (9) 私はこの時、次女もまた、父親がいなくなったことを寂しがっていると悟り、転居しようとした。転居はその学期の終わりに設定した。不思議なもので、母親が気持ちを変えると子どもたちもそれをすんなり受け入れる。
(神庭靖子『今どきのママ&キッズ :: おかあさんのための児童精神医学』)

まず例(7)の「気持ち」は、自分の体に対して、どういう状況かわからず、不安な思いを抱いているという心の状態を表していると考えられる。続いて例(8)の「気持ち」は、ある女性に対して「ありがとう」という思いを抱いている心の状態を表していると考えられる。さらに例(9)は、夫の転勤に伴わず、夫とは離れて今の家に住み続けようと思っていたが、娘たちが父親がいなくて寂しがるため、転居しようとしたことを「気持ちを変える」と表現している。このことから、ここでの「気持ち」は、夫に伴って転居するかどうかという問題に対して、転居せずにここにしようという思いを抱いている心の状態を表していると考えられる。よって例(7)から(9)の「気持ち」は、ある物事に対して何らかの思いを抱いている心の状態を表していると言うことができる。

以上から、「気持ち」の別義3は〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉と記述することができる。

4.4 別義4：〈(多くは副詞的に用いられ)ほんの少し〉

- (10) 「ことし十五になりました。十五と言えば、そろそろクリームや白粉の一つも欲しい年ごろ、そこでこうして呼び出して、気持ちばかりの小遣いをやろうという情けない父親であります」。(久世光彦『謎の母』)
- (11) 「気持ち右に寄って下さい」(『講談社類語辞典』、p.1450)
- (12) 「ねじを気持ち緩める」(『講談社類語辞典』、p.1450)

まず例(10)の「気持ち」は、父親が娘に渡す小遣いの額が、ほんの少しであることを表し

ている。同様に、例(11)と(12)の「気持ち」においても、ほんの少し右に寄る、あるいはねじをほんの少し緩めるということを表していると考えられる。このことから、例(10)から(12)の「気持ち」は「ほんの少し」という意味を表していると言える。また、ここでの「気持ち」は例(11)や(12)のように副詞的に用いられることが多い。

以上から、「気持ち」の別義4は〈(多くは副詞的に用いられ)ほんの少し〉と記述することができる。

4.5 別義間の関連性について

四つの別義間の関連性について考察する。

まず、「気持ち」の別義1(=〈身体に受けた刺激によって生じる〉〈心の状態〉)と別義2(=〈ある物事によって引き起こされる〉〈心の状態〉)の関係について考察する。別義1と2は〈心の状態〉という共通の意味を有している。また、別義1から2は、身体を通じた経験から、より心理的な経験へと意味が拡張していると考えられるため、別義2は別義1からメタファーによって成り立っていると言うことができる。

続いて、別義2と別義3(=〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉)の関係について考察する。別義3の〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉というのは、ある物事によってある心の状態が引き起こされ(=別義2)、その結果として、ある物事に対して何らかの思いを抱くような心の状態が生じると考えられる。よって、別義2と3には因果関係が認められ、別義3は別義2からメトニミーによって成り立っていると言うことができる。

さらに、別義3と別義4(=〈(多くは副詞的に用いられ)ほんの少し〉)の関係について考察する。別義4は、別義3の〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉という意味が、〈ほんの少し〉というより狭い意味に限定して用いられていると考えられる。よって、別義4は別義3からシネクドキーによって成り立っていると言うことができる。

5. 「気持ち」と「気分」の意味の違いについて

分析結果をもとに、「気持ち」と意味が類似していると考えられる「気分」との意味の違いについて考察する。

『使い方の分かる類語例解辞典』は、「気持ち」と「気分」の意味の違いについて、「気持ち」は「気分」よりも「感情や考えている内容を具体的に表わすことが多い」とし、『どうしても大学に行きたい気持ち』とはいうが、『大学に行きたい気分』とは普通いわない」と述べている⁷(p.230)。

『使い方の分かる類語例解辞典』が挙げている「気持ち」の例(『どうしても大学に行きたい気持ち』とはいうが、『大学に行きたい気分』とは普通いわない)から、『使い方の分かる類語例解辞典』は、本稿の「気持ち」の別義3(=〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉)と「気分」の意味の違いについて説明していると考えられる。

次の例(13)の「気持ち」は別義3を表すが、「気分」に置き換えると不自然な表現となる。このことから、「気持ち」の別義3と「気分」には互換性がないと考えられる。

- (13) 私はこの時、次女もまた、父親がいなくなったことを寂しがっていると悟り、転居しようとした。転居はその学期の終わりに設定した。不思議なもので、母親が気持ち(??気分)を変えると子どもたちもそれをすんなり受け入れる。(=9)

⁷ 『使い方の分かる類語例解辞典』では、「気持ち」「心持ち」「心地」「気分」という四語の意味の類似点・相違点について考察されている。

しかし、次の例(14)の「気分」は「気持ち」に置き換えても、その語を含む文の意味が大きく異なる。

- (14) 体じゅうを蚊に刺された痒みと、朝日の眩しさでようやく目醒めたものの、昨日にも増した宿酔いで歩行もままならない。体も冷えきっていて胸がむかつき、気分 (気持ち) が悪い。醜く歪んだ顔は幽鬼のようだ。

(塚本青史『霍去病 :: 麒麟竜彗星譚』)

例(14)の「気分」と「気持ち」は、体も冷えきり、胸がむかつくといった体の不調によって生じる心の状態を表している。ここでの「気持ち」は本稿で言う別義1 (=〈身体に受けた刺激によって生じる〉〈心の状態〉) を表すことから、「気持ち」の別義1と「気分」に互換性があると考えられる。

一方で、次の例(15)の「気持ち」は別義1を表すが、「気分」に置き換えると不自然な表現となる。

- (15) ほどよくかゆいところをかく刺激は、だれにとってもとても気持ち (??気分) のよいものです。そのため、かくという行為について浸ってしまいたくなります。(=2)

例(15)では文中に「かゆいところをかく」とあるように、ここでの「気持ち」は、外部から皮膚に刺激を受けることによって、好ましいと感じる心の状態を表している。例(15)の「気持ち」を「気分」に置き換えると不自然な表現となるのは、「気分」は例(15)のように外部からの刺激によって生じる心の状態ではなく、例(14)のように体の内部の状態によって生じる心の状態を表すからであると考えられる。

以上から、「気持ち」の別義1と「気分」の意味が類似しているが、「気持ち」が表す〈身体に受けた刺激〉というのは、身体内外からの刺激を表すのに対し、「気分」は身体内部の刺激によって生じる心の状態であるという点が異なると言うことができる。

また、次の例(16)の「気持ち」は別義2 (=〈ある物事によって引き起こされる〉〈心の状態〉) を表すが、「気分」に置き換えても、その語を含む文の意味が大きく異なると思える。

- (16) (前略) 上部には幅広のゴムを画びょうで留めて、スリッパ差しに。まだスペースがあれば、収納ポケットをつけて靴ベラや印鑑セットを収納する。このようにすると、狭い玄関でも、いつもスッキリ片づいて気持ち (気分) がいい。(=4)

例(16)の「気持ち」と「気分」は、玄関がスッキリと片づいていることによって引き起こされる心の状態を表している。このことから、「気持ち」の別義2と「気分」の意味に互換性があると考えられる。

しかし、次の例(17)と(18)の「気分」を「気持ち」に置き換えると不自然な表現となる。

- (17) (前略) 女性客は実用としてのバッグを買うために並んでいるのではなく、エルメスを持って歩くことで得られる気分 (??気持ち) のよさを買っているのである。はつきり言ってあんまりきれいじゃない女の人がエルメスを抱えていると、あいつあれで美人だと思って道歩してるんだ、などと男は揶揄するが、本人はエルメスを抱えて気分 (??気持ち) がいいから、男がこっちを向いていると思っているかもしれない。つまり消費とはそういうものなのだ。物語なのである。そういう物語を毎日毎日、

自分で演出し、自分で時間を使って生きている。道行く女の人がどういうお化粧してどういう心の動きをしているのかは他人には窺うことは不可能だが、男も女もみんな各人がそれぞれ考えて生きている。(猪瀬直樹『ラストチャンス』)

- (18) 例えば、お正月などの時期はただでも気分(??気持ち)がいい、おめでたい。そして仕事も休み、その上、楽しみにしていた仲間と過ごすことができる…。こんな気分(??気持ち)が上向いているときは、人間はまた凄いエネルギーを出すことができるのです。(松本祐『毎日楽しい気の暮らし』)

例(17)は、「エルメスを持って歩くことで得られる」心の状態や、「エルメスを抱え」ることによって得られる心の状態を「気分」と表しているが、「気分」を「気持ち」に置き換えると不自然な表現となる。文中で、「気分」が「心の動き」という表現に言い換えられているように、ここでの「気分」は、エルメスのカバンを持って歩くことで、女性の心理状態が、普段の心理状態よりも良い方向へと変化した状態にあることを表していると考えられる。

次に例(18)を見ると、例(18)においても「気分」を「気持ち」に置き換えると不自然な表現となる。文中に「お正月などの時期はただでも気分がいい」とあるように、ここでの「気分」は、「気分がいい」と感じる具体的な要因がなくても、お正月の雰囲気といった漠然とした要因によって引き起こされる心の状態を表している。しかし、「気持ちいい」は具体的な要因によって引き起こされる心の状態であり、「ただでも」といった漠然とした理由によって引き起こされる心の状態を表すことはできない。さらに、文中に「気分が上向いている」とあることから、ここでの「気分」も例(17)のように、普段の心理状態よりも良い方向へと変化した状態にあることを表していると考えられる。しかし、「気持ち」は、普段の心理状態よりも良い方向あるいは悪い方向に変化した状態にあることを表すことができないという点で両者は異なっている。

以上から、「気持ち」の別義2と「気分」の意味が類似しているが、「気持ち」は「気分」のように具体的な要因がなくても、漠然とした理由によって引き起こされる心の状態を表すことができないという点に加え、「気持ち」は「気分」のように普段の心理状態よりも良い方向あるいは悪い方向へと変化した状態にあるということを表すことができないという点で両者は異なると言うことができる。

6. まとめ

本稿では「気持ち」に四つの多義的別義を認め、次のように記述した。

- 別義1: 〈身体に受けた刺激によって生じる〉〈心の状態〉
- 別義2: 〈ある物事によって引き起こされる〉〈心の状態〉
- 別義3: 〈ある物事に対して何らかの思いを抱いている〉〈心の状態〉
- 別義4: 〈(多くは副詞的に用いられ)ほんの少し〉

また、別義間の関連性については、別義2は別義1からメタファーによって成り立っており、別義3は別義2からメトニミーによって成り立っており、別義4は別義3からシネクドキーによって成り立っているということを述べた。

今後の課題としては、「気分」の意味を明確に記述すること、また「気持ち」や「気分」の類義語である「心地」や「心持ち」の意味、および四語の意味の違いについて考察する必要があると考える。

文 献

- 國廣哲彌（1982）『意味論の方法』、大修館書店
国広哲弥（1997）『理想の国語辞典』、大修館書店
柴田武、山田進、加藤安彦、粂山洋介（編）（2008）『講談社類語辞典』、講談社
小学館辞典編集部（編）（2003）『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』、小学館
粂山洋介（2009）『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』、研究社
粂山洋介（2010）『認知言語学入門』、研究社
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』、角川学芸出版